



今月の江戸しぐさ「ねぎらいしぐさ」 10月

日本は古墳時代から漢字の導入がはじまったと言われ、中国の読み方と日本の古来からの言葉との融合が occurred。このため日本語は他の言語と異なり、複雑で奥行き深い原因の一つになっています。

「労を労（ねぎら）う」「労（いたわ）る」のように同じ労という漢字で使い方が異なってきますが、労は精を出すこと、いたわること、ねぎらうべきこと、という共通した概念があつたと考えられます。

江戸時代までは現在のような競争社会ではなく、共存の社会だつたようです。そろそろ人と人が気持ちよく関わっていた時代を取り戻してもよいと思います。

忙しい日常の生活で、いたわりやねぎらいの気持ちを伝えることを忘れがちですが、言葉にしないと伝わらないものです。

「お疲れさまでした」

「よく頑張ったね」

「いつもありがとう」

職場でもねぎらいやいたわりの言葉が多いと素敵ですね。

※江戸思草は、江戸時代の町民が良いとされること、悪いとされることなどの生活の規範としていたものです。

判断の基準は粋かどうかだったようです。

粋の概念は武士の武士道に対抗するものだったという説があります。他の国にない、一般庶民の高度な精神性が、当時日本に来た外国人に驚きをあたえていたことが多数記録されています。

ヘレン・ハイド

Helen Hyde(1868~1919)

日本を愛したアメリカ人版画家。

江戸の風情が強く残っていた明治期に10年以上滞在し、女性の視点から愛らしい子供の作品をたくさん残してくれました。

当時の外国の観察者の多くが、西洋諸国と子供の様子や子育ての考え方が根本的に異なっていることに驚いていました。



疲れ切った小さな母さん

